

公立高校初の学びの多様化学校

～「毎日登校したくなる学校」を目指して～

1 はじめに

令和6年度の福岡県内公立小中学校における不登校の児童生徒は19,307人でした。この人数は、全国的にも多い状況にあります。その中で、担任等の教職員以外の教育支援センター、児童相談所、病院、スクールカウンセラーなど学校内外での相談・指導等を受けている不登校の児童生徒の割合は、小学校で68.4%、中学校で64.5%となっており、小・中学校ともに全国よりも高い状況です。しかし、学校内外での専門的な相談や指導等を受けていない不登校の児童生徒が3割以上存在しており、そのような児童生徒に対して、どのように教育の機会を確保していくかが課題となっています。

福岡県教育委員会では、ホームページ内に「県立高校における多様な学びの場の充実について（不登校を経験した生徒が学びやすい環境の整備）」というページを作成し、不登校を経験した生徒が学びを諦めることがないように、県立高校に準備された様々な学びの場について説明しています。

2 学びの多様化学校の設置

不登校を経験した中学3年生の中には、全日制高校を志向しながら、手厚い支援がなければ修学が難しい生徒が一定数いると考えられます。県内における不登校の児童生徒が増加傾向にある中、令和6年2月、福岡県は、学びの多様化学校を令和7年度から既存の県立高校（小郡高校）にコースとして設置することを公表しまし

た。そして、令和7年4月、公立高校では全国初となる学びの多様化学校を、小郡高校みらい創造コースとして開校しました。

小郡高校は全日制の普通科高校で、筑後地区北部に位置します。令和8年に創立43年を迎え、地域からの信頼が厚く、全校生徒数は780人を超えます。また、学校から徒歩3分の場所に鉄道の駅があり、通学の利便性が高いことも大きな特徴です。

みらい創造コースは、全日制・単位制の普通科であり、県内全域が通学区です。コースの名称は、様々な背景により不登校を経験した生徒が、一人一人に応じた特別な教育課程やきめ細かな支援等を通じて、自らの生き方や進路について考え、能力や適性を伸ばすことで、夢を叶え、明るい未来を築き上げることができるよう、「みらい創造」コースとしました。「忠恕・明德・剛健」の校訓のもと、同年代の仲間と共に生き生きと学校生活を送ることができ「毎日登校したくなる学校」を目指し、次の(1)～(3)を柱として教育活動を展開しています。

- (1) 安心して学習できる環境
- (2) コース独自のカリキュラム
- (3) 手厚い教育相談体制

3 特色ある教育活動の概要

(1) 安心して学習できる環境

① 始業時間は9時30分

みらい創造コース（以下、コース）の始業時間は9時30分となっており、朝早く起床することが苦手な生徒や、混雑した電車やバス等が苦手な生徒も、安心して

登校することができます。

② 45分授業

授業は1コマ45分です。授業時間が通常よりも5分短くなるため、生徒が集中して授業を受けることができる環境づくりに努めています。また、授業と授業の間の休憩は15分間ありますので、ゆとりをもって次の授業の準備ができるほか、トイレ等の利用や教室移動の際も、コース以外の生徒の混雑を避けることができます。

③ 少人数学級編制

1学年には40名が在籍しますが、大人数を苦手とする生徒への配慮として、1クラス20名の少人数学級編制で、各クラスに担任、副担任を配置しています。入学1年目の国語、数学、英語については、40名を3つのグループに分割して習熟度別授業を実施しており、生徒の学習到達度に合わせた学習指導に取り組んでいます。



写真1 少人数学級編制と学習支援員

④ 学習支援員

各クラス(20名)に1名ずつ学習支援員を配置しています。授業等における学習支援(机間指導や個別指導、声掛けなどのサポート)を行っているため、生徒たちは安心して授業に臨むことができます。

⑤ 2学期制と観点別評価

4月～9月を前期、10月～3月を後期とし、学期間には秋季休業があります。定期考査を実施せず、日頃の

授業に対する取組や、単元テスト等を活用して評価します。

⑥ ICTを活用した学習支援

体育等の実技系の授業を含め、ほとんどの授業をオンラインでリアルタイム配信しています。自宅でも授業に参加できるため、登校できないときも学習の遅れが生じにくく、「勉強についていけないから登校したくない」という状況ができるだけ発生しないようにしています。



写真2 ICTを活用した学習支援

⑦ コース専用の昇降口

コースの生徒専用の昇降口を設けています。時制(始業時間が遅く、終業時間が早い)や教室の配置も含め、コース以外の生徒と動線や活動エリアが重ならないよう工夫しています。



写真3 コース専用の昇降口

⑧ 服装・校則

服装は自由選択です。私服で登校することができますが、小郡高校の制服を選択することもできます。

服装以外のルールは小郡高校の校則に準じますが、生徒の実態に応じて、コース独自のルールをいくつか設けています。例えば、スマートフォン等については、生徒の所在を確認したり、保護者との連絡を取ったりするなど、命を守るためのツールになることから、使用場所等のルールを決めたうえで使用を許可しています。

⑨ リラックスルーム

職員室の横にリラックスメールームを設けています。気持ちを落ち着かせるための部屋で、絨毯、ソファ、パーテーション付きのデスクなどがあります。教室で授業を受けられない場合は、リラックスメールームでオンライン授業を受けることもできます。



写真4 リラックスメールーム

(2) コース独自のカリキュラム

① 類型パターンと時間割

本コースの類型パターンには、大学進学等を目指す「進学パターン」、就職・専門学校進学等を目指す「就職パターン」の2種類があり、入学後、生徒の希望に応じて決定します。「進学パターン」の生徒は、高校3年生にあたる年次に文系か理系かを選択します。どちらの

・進学パターン（7限授業）		・就職パターン（6限授業）	
第1限 (リフレクション)	9:30～9:40	第1限 (リフレクション)	9:30～9:40
第2限	9:45～10:30	第2限	9:45～10:30
第3限	10:45～11:30	第3限	10:45～11:30
第4限	11:45～12:30	第4限	11:45～12:30
昼休み	12:30～13:15	昼休み	12:30～13:15
第5限	13:20～14:05	第5限	13:20～14:05
第6限	14:20～15:05	第6限	14:20～15:05
掃除	15:05～15:20	掃除	15:05～15:20
リフレクション	15:20～15:30	リフレクション	15:20～15:30
第7限	15:40～16:25		

図1 みらい創造コースの時間割

類型パターンも始業時間は9時30分ですが、「進学パターン」のみ7限に授業を実施し、大学入試等に必要の実力を養います。

② 学校設定科目の充実

学校設定科目は、普通科では通常20単位までしか認められないところを、学びの多様化学校の特例として、本コースでは最大36単位まで履修することができます。

コースの学校設定科目のうち、入学1年目に履修する科目の一部を紹介します。

ア リフレクション

毎日、朝と放課後に10分ずつ実施します。1日の過ごし方を計画したり、1日を振り返ったりします（1日20分×5日間で合計100分なので、2単位の科目として設定）。1日のスムーズなスタートと、振り返りを通じた翌日以降の登校支援につなげます。リフレクションで使用する記入シートには、起床時間や就寝時間を記録する欄のほか、「今週の在りたい自分」「今日の体調・気持ち」「独り言」などを記入する欄を設けています。回収後は教員がコメントを付けて返却しています。

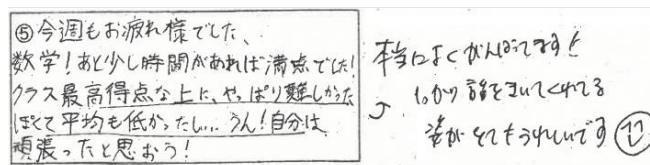


図2 リフレクションシートのキャプチャ

イ CR (キャリアリサーチ)

高校卒業後の進路に関する探究的な活動のほか、自己理解を深め、コミュニケーション能力を高めるような活動（ソーシャルスキルトレーニングなど）を行います。

ウ ブリッジ国語、ブリッジ数学、ブリッジ英語

中学校の国語、数学、英語の学び直しを行います。義務教育段階での学習の遅れを取り戻し、安心して高校の学びに向かうことができます。

③ コース独自の学校行事

生徒の実態に配慮しつつ、生徒の希望を聞きながら、生徒と教員と一緒に企画していきます。生徒の状況に応じて、参加の仕方は様々です。令和7年度はレクリエーション大会を実施したほか、学校の文化祭に校内装飾係として参加しました。

生徒アンケートの結果、修学旅行に対して肯定的な意見が多かったため、高校2年生にあたる年次を実施することを計画しています。秋季休業中に実施することで、参加しない生徒が欠席扱いにならないよう配慮します。



写真5 コース独自の学校行事

④ 通信制高校との学校間連携

健康上の理由等で履修の条件を満たさず、単位の修得が認められなかった生徒（または履修条件を満たすことが難しいと考えられる生徒）は、通信制課程を有する県立高校としては、県内唯一である、博多青松高校との学校間連携により、最大36単位まで修得することができます。

本コースは単位制を採用していますが、履修科目を

履修又は修得できなかった場合や、履修の順序性の関係で次年次での履修が難しかったりする場合は、卒業の要件に関わってきます。博多青松高校通信制課程で実施される対面のスクーリング（テストを含む）に出席する必要はありますが、心理的な面も含め、卒業に係る負担を軽減することをねらいとしています。レポート等の添削・評価は博多青松高校の教育職員が行いますが、本コースの教育職員が学習面でのサポートを行います。

(3) 手厚い教育相談体制

① SC・SSWの重点的配置

本コースにはSC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）を重点的に配置しており、生徒や保護者が相談しやすい環境を整えています。SCの配当時間は県内最多となっています。SSWは生徒理解のために生徒の個人面談を実施してくれるほか、生徒支援のために、学習支援員とともに授業中の教室に入ってくれることもあります。

② 外部の専門機関等との連携

入学前から丁寧な面談を行います。その上で、生徒・保護者等の了承が得られた場合、在籍していた中学校等との連携・情報共有や、医療機関等外部の専門機関（生徒が通院している病院や、支援を受けているサポート団体等）との連携を行っています。

4 成果と課題

(1) これまでの成果

設置から1年余りが経過し、みらい創造コースは2期生を迎えました。現在のところ、およそ8割の生徒がほぼ毎日登校できています。また、それ以外の生徒の多くが、欠席することはあるものの、本人のペースで登校しています。これは、設置当初の予想を上回る登校状況ですが、一部の生徒の中には、無理をして頑張っている様子も見受けられるため、全職員で生徒の小さな変

化を見逃さないように、目配りや声掛け、丁寧な面談等を心がけています。クラスの雰囲気も、お互いが不登校経験者であることを認識しているため安心感があるのか、とても落ち着いていると感じています。

生徒たちが順調に学校生活を送ることができているのは、支援体制やクラスの雰囲気が入学した生徒に合っていたという点や、環境が変わったことによる生徒自身の気持ちの変化によるところもあると思いますが、それ以上に、コース担当となった先生方が、生徒一人一人の状況に応じて適切な支援を行っていることも大きいと感じています。様々な事情により不登校を経験した生徒たちにとっては、ちょっとした声掛けでも、言葉の選択やタイミングなどがことさら重要になってきます。先生方がこれまでの経験の中で培ってきた「生徒支援の力」によって、コースの教育活動が支えられています。

今後、さらに生徒の数が増え、それにもなって職員の数も増えていったとき、教育の質を維持するためには、指導のノウハウを言語化し、共通理解を確立した上で指導する体制づくりが必要です。どの学校においても、多様な個性や特性を有する生徒が在籍しており、こうした多様性を包摂し、一人一人の学習意欲を高め、可能性を开花させる教育を実現していくためにも、本コースで得られたノウハウは、学びの多様化学校以外の学校でも大変有益であり、多様な生徒一人一人に寄り添った指導があらゆる教育の場面で生かされると思います。

(2) これからの課題

① 生徒の進路保障

高校はあくまでも通過点であり、生徒はその先の就職先や進学先で自分の人生を設計していかなければなりません。コースでの様々な支援によって、自信を持って社会に参加する意欲と、自立して社会で豊かに生きることが出来る力を身に付けることは、本コースにとって最も重要な使命だと考えています。

② 生徒とコースの適切なマッチング

中学生向けに開催する説明会などで生徒や保護者の

お話を伺うと、オンライン授業を前提として考えていたり、定時制や通信制のしくみと混同していたりする方がおられます。本コースは不登校の生徒を対象とした全日制の高校であり、毎日登校してクラスの仲間と一緒に学習することが基本となります。特別の教育課程をはじめとする、生徒の学力や個性に応じた手厚い支援により、安心して学習に取り組む環境を整えている学校であることを理解していただき、生徒とコースの適切なマッチングを促すために、広報活動を通じて正しい情報を提供していく必要があります。

5 おわりに

学ぶ意欲があっても、既存の県立高校の体制で学ぶには支障や困難があり、十分な進路選択ができていない不登校の生徒が、きめ細かな支援や生徒の実態に配慮した教育活動により継続して登校し、同年代の生徒どうしが同じ空間でお互いの感性や考え方に触れながら、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら課題を解決する力を身に付け、自立して社会で豊かに生きる力を育てよう、みらい創造コースが設置されました。

次年度、コースは3年目を迎えます。現在、ほとんどの生徒が継続して登校することができていますが、1期生の多くが、大学・専門学校等の入試や就職活動などに向け、精神的負担の大きな1年間を過ごすこととなります。生徒一人一人が進路希望を実現し、明るい未来を創り上げていけるよう、引き続き生徒に寄り添った支援を行っていきます。

最後に、コースの生徒が1年間の振り返りとして記した言葉を紹介し、本県の取組についての説明を閉じたいと思います。

「1年間を振り返って」(一部抜粋)

中学1年生の時に学校に通えなくなり、何も行動せずにただただ時間だけが流れていきました。周りに追いつ

けないことの不安や焦りから、なおさら学校に通うことが怖くなり、3年間ほとんど学校に通えませんでした。

中学3年生の夏に、ニュースでみらい創造コースのことを知り、11月に受検することを決めました。高校に入学するまではとても不安でしたが、いざ入学してみると、相談しやすい環境が整っていて、毎日学校に通うことができました。行事の運営にも参加することができて、とても楽しく過ごせました。この学校を選択して本当に良かったと思います。もし入学する前の自分に話ができるのなら、「ちゃんと学校通ってるよ」と言いたいです。自分を支えてくださった沢山の方々に感謝します。